新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第90号

§　新潟県野鳥保護の集い（十日町市）§

「平成30年度新潟県野鳥保護の集い」（共催：新潟県野鳥愛護会）が6月16日(土)～17日(日)に十日町市松之山「三省ハウス」を会場に開催されました。（参加者数：４６名）

○新潟県野鳥保護の集い　16日(土)16：00～

【講演】

「2種類の小型記録装置を用いたブッポウソウの渡り追跡　－7年間の成果と課題－」

講師　(公財)山階鳥類研究所　仲村　昇　氏

国内で減少しているブッポウソウ(絶滅危惧種)の渡り研究の成果・課題を講演いただきました。

ブッポウソウは夏鳥で冬は海外で過ごすため、一般的な足環での研究は難く、電波を利用した記録装置を装着した調査方法を採用しているとのことです。

その結果、中国地方の個体の渡りルートは、東シナ海を渡り中国大陸を南下し、ボルネオ島、ジャワ島で越冬することが判ったそうです。

松之山、長野県で記録装置を装着した個体は、西日本に渡り、その後は西日本の個体と同様のルートでスマトラ島、カンボジアに渡っていることが判明していますが、電池切れ等で正確な越冬地は判明しておらず、日本のブッポウソウはボルネオ島で越冬している可能性が高いと説明がありました。

また、巣箱による保護活動の結果、繁殖個体数が回復してきているとのことです。特に西日本では定着率が高く、広島県では巣箱の数だけ営巣する事態となっていて、地元住民の保護活動が良い結果をもたらした話もされました。

仲村先生の講演

探鳥会の様子

【講演】

「豪雪地松之山の自然と野鳥」

講師　松之山野鳥愛護会会長　村山　暁　氏

松之山の住民の生活と野鳥ついて講演いただきました。松之山の積雪は人が生活する場所では世界一で、過去５．５９ｍを記録したこともあり、その豪雪地は野鳥にとって住みよい場所となり、多くの野鳥が生息地としているとのことです。松之山はブナ林や棚田が多いのが有名で、農作業をするには非常に苦労した土地でもあったと話されました。

野鳥の生息環境は恵まれていて、アカショウビンなどの樹洞を利用する種類が特に多いとのことです。

貴重な写真を交えての講演に参加者も真剣に聞き入っていました。

【講演】

「巣箱架設による絶滅危惧種ブッポウソウの保護活動2007-2017」

講師　松之山野鳥愛護会副会長　村山　祐一　氏

巣箱架設から11年間の活動を講演いただきました。1年目から巣箱に営巣し、カメラを設置したことでブッポウソウは産卵数平均4個、抱卵日数平均20.7日、孵化は平均3.1個であることわかりました。

カメラ設置には毎日のバッテリーを交換する必要があり、時には電源の入れ忘れがあったそうですが、苦労の末の調査結果に頭が下がる思いになりました。

【早朝探鳥会】

１７日(日)　4：30～8：00(晴れ)

２日目の探鳥会は「森の学校」キョロロ周辺で行われ、アカショウビンのさえずりに迎えられ、2コースに分かれ開催しました。美人林コースではキビタキ、サンコウチョウが確認され、一方のバードピア須山コースでは、ノジコなどが確認できました。

最後は、全員でブッポウソウを観察し、前日の講演を思い起こしながらの探鳥会になりました。

観察種：オシドリ、カルガモ、キジバト、アオバト、アオサギ、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ハチクマ、トビ、ツミ、サシバ、フクロウ、アカショウビン、カワセミ、ブッポウソウ、コゲラ、アカゲラ他　合計46種

鳥インフルエンザについて

一昨年に新潟県で発生した鳥インフルエンザ。多くの鶏が処分され、心を痛めた方も多いかもしれません。過度に心配する必要はありませんが、正しい知識を持って鳥とつきあいましょう。

そもそも鳥インフルエンザって何？

鳥インフルエンザとは、A型**インフルエンザウイルス**による鳥の感染症です。野生の水鳥（カモなど）は鳥インフルエンザウイルスを腸内に保有していますが、その多くは症状が出ません。しかし、鶏などの家きんが特定の鳥インフルエンザウイルスに感染した場合、大量に死亡してしまうことがあります。

鳥から人にうつるの？

鳥インフルエンザウイルスは、通常ヒトには感染しません。しかし、感染した鳥や死体と濃厚に接触した場合に、きわめて稀に感染することがあります。なお、これまで鶏肉や鶏卵を食べることによってヒトに感染したという事例の報告はありません。

弱った野鳥や死んだ野鳥を見つけたらどうしたらいい？

野鳥は様々な原因で衰弱することがあり、必ずしも鳥インフルエンザに感染しているわけではありません。しかし、他の細菌や寄生虫を持っていることもあるので、衰弱または死亡した野鳥やその排泄物を見つけた場合は、直接触れないでください。触れた場合には、手洗いとうがいをしましょう。なお、野鳥が多数死んでいるのを見つけたら、お近くの地域振興局か、愛鳥センターまでご連絡ください。

愛鳥センターでの対応は？

感染しやすい鳥については、センター内に収容する前にウイルス検査をしており、ウイルスの持込みを阻止する対策を行っています。愛鳥センターには様々な種類の鳥が収容されるため、万が一ウイルスがセンター内に侵入した場合、ウイルスが変異して病原性が高くなる可能性があるからです。そのため、新潟県内で鳥インフルエンザが発生した場合には、鳥の保護収容を一時的にお断りすることがあります。

§平成30年度新潟県野生生物保護実績発表大会§

新潟県では、現在36校の小中学校が愛鳥モデル校として指定されており、毎年各校で行ってきた野生生物の保護活動の内容を報告いただいています。

それらを書類選考のうえ6校を選出し、県大会を8月8日に新潟県自治会館本館で開催しました。県大会では、各学校数名ずつ生徒たちに前に出てきてもらい、学校での取り組みを発表していただきました。発表ではスタッフの操作機器不良による順序変更等にもご協力いただき、皆様大変ありがとうございました。

どの学校からも、自分たちの地域の特色ある自然環境と、そこに生息する生き物たちに興味を持ち、過去の記録をしっかり踏まえて課題を見つけて活動している様子が分かりやすく、興味深く発表されました。

村松桜中学校の発表

審査結果

金賞	上越市立春日小学校
銀賞	五泉市立村松桜中学校
銅賞	阿賀野市立水原小学校
	小中一貫校まつのやま学園 十日町市立松之山小・中学校
	津南町立芦ヶ崎小学校
	糸魚川市立下早川小学校

金賞を受賞した上越市立春日小学校は、伝統的な探鳥会で観察されなくなった種類から原因や対策を考えるなどの課題を見つける活動が高く評価されました。

銀賞を受賞した五泉市立村松桜中学校は、形骸化していた探鳥会に興味を持ってもらえるような活動を行い発展性が感じられる発表でした。

金賞！春日小学校

今年度は金賞の上越市立春日小学校と、銀賞の五泉市立村松桜中学校の2校を、公益財団法人日本鳥類保護連盟主催の全国大会へ推薦させていただきます。

§傷病鳥獣の収容状況§

平成30年度　4月～7月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数	収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数
（鳥類）								27	オナガ		1			1	0
1	キジ		9	3		5	1	28	ハシボソガラス	2	1			1	2
	マガン	1					1	29	キクイタダキ		1			1	0
2	コハクチョウ	11	4	4		1	10	30	シジュウカラ		4			4	0
	オオハクチョウ	1				1	0	31	ツバメ		29	8		18	3
3	マガモ	1	1	1			1	32	ヒヨドリ		3	1		2	0
4	カルガモ		13	3		9	1	33	ヤブサメ		1			1	0
	オナガガモ	1				1	0	34	メボソムシクイ		1			1	0
	コガモ	2				2	0	35	エゾムシクイ		1	1			0
5	キジバト	2	5	2		2	3	36	センダイムシクイ		3	1		2	0
6	アオバト	1	1				2	37	ムクドリ		11	2		9	0
7	アオサギ		4	2		2	0	38	コムクドリ		2			2	0
8	ダイサギ	1	3	1		3	0	39	マミジロ		1				1
9	コチドリ		3			3	0	40	コマドリ		1	1			0
10	ヤマシギ		1			1	0	41	コルリ		1	1			0
11	ウミネコ	1	1			1	1	42	ジョウビタキ		2	1		1	0
12	オオセグロカモメ		1				1	43	イソヒヨドリ		1			1	0
13	ミサゴ		1			1	0	44	コサメビタキ		1	1			0
14	トビ	3	2	1			4	45	キビタキ		3	1		1	1
15	ツミ		1			1	0	46	スズメ		26	12		14	0
16	サシバ		1				1	47	キセキレイ		1			1	0
17	ノスリ	1	2			1	2	48	ハクセキレイ		14	2		12	0
	クマタカ	1					1	49	カワラヒワ		7	3		4	0
	オオコノハズク	1		1			0	50	ドバト		5	3		2	0
18	フクロウ	1	2				3	51	鑑賞バト		1		1		0
19	アオバズク	1	5	2		1	3	52	レースバト		1			1	0
20	トラフズク		3	2		1	0	53	不明		2			2	0
21	カワセミ		2	1		1	0	小計		34	197	63	1	122	45
22	コゲラ		1			1	0	（獣類）							
23	アオゲラ		1			1	0	1	タヌキ		1			1	0
24	チョウゲンボウ		3	1			2	2	アブラコウモリ		1	1			0
25	ハヤブサ	2	1			2	1	3	ムササビ		1			1	0
26	モズ		1	1			0	小計		0	3	1	0	2	0
								合計		34	200	64	1	124	45

平成30年4月1日～7月31日までの収容数は、鳥類53種197羽、獣類3種3頭で、昨年度の同時期（鳥類156羽、獣類3頭）と比べ鳥類は増加した。

＜その他＞
- コサメビタキ　7例目（平成20年収容以来）
- イソヒヨドリ　8例目（平成22年収容以来）

釣り糸や釣り針は持ち帰りましょう

愛鳥センターに収容される野鳥たち（特にカモメ類）の中には、釣り糸（テグス）や釣り針による被害を受けたものが多く見られます。

池や海岸に捨てられた釣り糸にからまると、身動きが取れなくなったり、血が通わなくなって足が取れてしまったりします（釣り糸は丈夫なためなかなか切れず、しかも腐りません）。釣り針がついたまま捨てられた魚やルアーなどをエサと間違えて飲み込むものもいます。

針がのどの奥深くに食い込むと、エサが食べられず弱って死んでしまいます。

予防はかんたん。**「釣り糸や釣り針を捨てない」ことです。**捨てられた釣り糸や釣り針はゴミとなるだけでなく、野鳥の命も奪っているのだということを多くの方に知っていただき、基本的なマナーを守るということを心掛けていただければと思います。

§4～6 月の探鳥会・観察会§

4/22（日）春の渡りを見る会　6:30～9:15　（晴れ）
場所：大峰山　参加者:42 名　観察種：32 種【①】

暑いくらいの良いお天気で、早速サシバが飛んでくれました。杉林の林道を進むと、ヤブサメやミソサザイが良くさえずり、エゾムシクイのきれいな鳴き声も何度か聞こえてきました。クロツグミが地面に降りてエサを採っているところや、オオルリのオス 2 羽が縄張り争いをしているところも見られました。

5/13（日）愛鳥週間探鳥会　6:30～9:10　（曇り）
場所：大峰山　参加者:38 名　観察種：41 種【③】

サンショウクイがよく鳴く中を進んでいくと、スタート地点からほど近いところでイスカを 1 羽確認。池では石の上に止まるカワセミを見つけました。林道を歩いていくとオオルリの声がよく聞こえてきて、姿も何回か確認できました。見晴らしの良い斜面ではサンショウクイがよく飛び、ハチクマも確認できました。

6/10（日）三光鳥を聞く会　6:30～9:00（晴れ）
場所：剣龍峡　参加者:43 名　観察種：28 種【⑤】

最初、サンコウチョウはなかなか鳴いてくれませんでしたが、美しいキビタキのオスが現れてくれました。林道に出るとミソサザイが元気にさえずり、近くからはサンコウチョウの「ホイ、ホイ、ホイ♪」の鳴き声が！姿を見られた参加者もいました。その後、トラツグミやアカショウビンなども確認することができました。

5/6（日）春の初心者探鳥会　8:30～10:15　（晴れ）
場所：愛鳥センター周辺　参加者:42 名
観察種：15 種【②】

駐車場付近でスズメを観察してから出発。池の近くではシジュウカラやセンダイムシクイの鳴き声を聞くことができ、上空を飛ぶノスリ 2 羽も観察できました。野鳥の習性や植物についてのお話を聞きながら進み、途中ではアオジの姿を見ることができました。

5/27（日）紫雲寺記念公園探鳥会　8:30～10:00
場所：紫雲寺記念公園　参加者:14 名（晴れ）
観察種：17 種【④】 (紫雲寺記念公園プロモーションパートナー共催)

近くの畑では、電線に止まってさえずるホオジロの姿をみんなでじっくり観察することができました。その他にカワラヒワが数羽飛び、メジロも賑やかにさえずり、キジやカッコウの声も聞くことができました。

愛鳥週間探鳥会のようす

探鳥会の確認鳥種

No.	種名	①	②	③	④	⑤
1	キジ	●	●	●	●	●
2	カルガモ			●		
3	キジバト	●		●	●	●
4	アオサギ			●	●	
5	ホトトギス					●
6	ツツドリ			●		●
7	カッコウ				●	
8	アマツバメ			●		
9	コチドリ	●				
10	ハチクマ			●		
11	トビ		●	●	●	●
12	オオタカ			●		
13	サシバ	●		●		●
14	ノスリ		●			
15	アカショウビン					●
18	カワセミ			●		
19	コゲラ	●	●	●	●	●
20	アオゲラ	●				
21	ハヤブサ					●

No.	種名	①	②	③	④	⑤
22	サンショウクイ	●		●		●
23	サンコウチョウ			●		●
24	モズ	●		●		
25	カケス	●		●		●
26	オナガ				●	
27	ハシボソガラス	●	●	●		
28	ハシブトガラス	●	●	●	●	●
29	ヤマガラ	●		●		●
30	ヒガラ	●		●		●
31	シジュウカラ	●	●	●	●	●
32	ツバメ	●		●	●	
33	イワツバメ	●		●		●
34	ヒヨドリ	●	●	●	●	●
35	ウグイス	●	●		●	●
36	ヤブサメ	●		●		●
39	エゾムシクイ	●	●	●		
40	センダイムシクイ		●	●		
41	メジロ	●		●	●	●
42	ミソサザイ	●		●		●

No.	種名	①	②	③	④	⑤
43	ムクドリ	●				
44	トラツグミ					●
45	クロツグミ	●		●		●
46	コマドリ	●				
47	コサメビタキ			●		
48	キビタキ			●	●	●
49	オオルリ	●		●		●
50	スズメ	●	●	●	●	
51	キセキレイ			●		
52	ハクセキレイ	●				
53	セグロセキレイ			●		
54	カワラヒワ	●	●	●	●	
55	マヒワ	●				
56	イスカ			●		
57	イカル			●		●
60	ホオジロ	●	●	●	●	●
61	アオジ	●	●	●		
	計	32	15	41	17	28

§ 標本作製教室を開催しました §

愛鳥センターには県内各地から毎年 500 羽前後の傷病鳥が収容されますが、自然に戻れるのは 3 割ほどで、多くは残念ながら死んでしまいます。死んでしまった鳥たちから剥製や翼・肢・骨などの標本を作製して、イベントや展示、学校案内などで利用しています。

7 月 22 日（日）9:30～15:30 に当センター2 階研究室において、翼と肢の標本作製教室を開催しました。（対象：高校生以上、参加者：3 名）

作製に用いた鳥は、オオコノハズク、チョウゲンボウ、ツグミです。職員の説明後、各自測定と作製に入りました。参加者は、野鳥の標本を作製するのは初めてとのことでしたが、スムーズに作業を進めていました。皮を剥く途中で穴が開いてしまったり、羽が抜けてしまったりと大変なところもありましたが、コツコツと取り組んでいただき、午前中のうちに洗浄と乾燥まで進みました。

午後からは、綿を巻いて縫合です。フワフワした羽が邪魔をして、皮を縫い合わせるのもなかなか大変な作業なのですが、出来上がりをイメージして果敢に取り組んでいただきました。そして図鑑を参考にしながら形を整え、針で保定して完成です！みなさん上手に出来上がりました。

最後は雌雄の確認も行いました。乾燥後は、今後の愛鳥センターの普及啓発活動で利用させていただく予定です。

参加者からは、「毎年何回でもやって欲しい」「仮剥製にもトライしてみたい」などの感想をいただきました。

参加者が作製した翼と肢の標本

§ 工作教室 §

愛鳥精神の高揚を図り、野鳥の生態を学ぶ目的として毎年開催しています。今年は「野鳥マグネット」作りを 7 月 29 日に開催し 23 名が挑戦しました。

日本野鳥の会新潟県の桑原氏を講師に迎え、参加した子供たちは、画用紙に描かれた鳥の絵の色塗りから開始。手本を見ながら真剣に鳥を描いていきます。

色彩の美しいオオルリやキビタキなどが題材として示され、いろいろな絵の具を使いながらオリジナルの鳥に仕上がりました。

続いて、マグネットシールに画用紙を貼り付け、鳥の形に切り取り完成です。

完成した野鳥マグネットは、早速、会場の扉や黒板で羽ばたきました。

家庭でも羽ばたいてもらい、次は愛鳥センターに実際の鳥を見に来てくださいね。

完成した！野鳥マグネット

巣箱づくり製作の様子

§ 巣箱づくり教室 §

こちらも、毎年夏休みに開催している大人気の「巣箱づくり教室」。8 月 19 日、25 日に各 8 組を募集しての開催でしたが、今年も募集開始早々に定員に達しました。

新潟県野鳥愛護会の白井氏を講師に、第 2 回目の教室ではインターンシップの学生 2 名も助っ人として参加してくれました。

初めに、白井講師から巣箱の役割について説明を受けた後、材料の木を選び、図面を見ながら木に線を引いていきますが、ノートに線を引くこととは違い直角に線を引くことも簡単にはいきません。

続いて、スタッフから鳥の出入り口の穴をあけてもらったら、鋸で板を切りますが、初めて工具を手にする子供もいて悪戦苦闘する場面も。保護者の方や助っ人の学生たちが手助けしながら何とか切り出しました。釘を使った組み立てでも釘が曲がったりして苦労の連続でしたが、何とか完成しました。

最後に講師より、巣箱の設置方法を学び、実際に愛鳥センター前で設置。雨が巣箱に入り込まないように前に傾斜をつけながら取り付ける工夫などの説明を交えながら実践いただきました。

参加してくれた子供たちには、自分が作った巣箱から鳥の出入りする様子などを観察し、野鳥保護などの環境を学ぶ場となってほしいと願っています。

§ 第 18 回ライチョウ会議新潟妙高大会　§

10 月 19 日（金）～22 日（月）に妙高市で「第 18 回ライチョウ会議新潟妙高大会」が開催されます。

ライチョウは、本州中部の標高 2,400m以上の限られた地域のみに生息し、火打山は日本に生息するライチョウの北限地として知られています。

ライチョウ会議では、豊かな自然環境の象徴「ライチョウ」を守るために、今何をすべきか？をテーマに火打山の貴重な自然に棲むライチョウの現状について知っていただき、先人から受け継いだ「ライチョウ」を引き継いでいくための様々なイベントが開催されます。

是非この機会に、ライチョウの生態について知り、今後の保全対策を共に考えてみませんか。

《日程》
19 日　ライチョウシンポジウム（要申込み）
　　13：00～16：30（妙高市文化ホール）
　　・特別講演　工藤夕貴
　　・基調講演　中村浩志
　　・パネルディスカッション
20 日　ライチョウ保護ワークショップ（申込み不要）
　　9：00～12：00、13：00～16：00
　　（新井ふれあい会館）
　　・研究成果の発表と意見交換会
21 日・22 日　エクスカーション
　　「火打山ライチョウ観察会」（要申込み）
　　・高谷池ヒュッテ 1 泊（参加費 15,000 円）
※申込み先
大会事務局　妙高市役所環境生活課環境企画係
　　電話 0255-74-0033

火打山のライチョウ

◆　4～7 月の利用者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	計	累計
来館者数	1, 207	1, 979	1, 608	631	5, 425	615, 590

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 30 年 5 月～平成 30 年 8 月 **3, 811 円**
累計 **290, 348 円**
みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。
今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前 9 時～午後 4 時
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho/
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

1 月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・秋の渡りを見る会（ビュー福島潟駐車場集合）
　10/21（日）　9:00～11:00
・紫雲寺記念公園探鳥会(愛鳥センター集合)※要申込
　10/28（日）　9:00～10:30　定員：20 名
　申込先：紫雲寺記念公園管理事務所 0254-41-3740
・冬の初心者探鳥会（瓢湖白鳥会館駐車場集合）
　11/ 11（日）　8:00～ 9:30
・鳥屋野潟市民探鳥会（鳥屋野潟公園東屋「いやしの庭園」（中央区鐘木）集合）
　12/ 2　（日）　8:00～10:00
・五十公野公園探鳥会（五十公野公園駐車場集合）
　12/9（日）　9:00～11:00

観察会、講座

・足跡ウォッチング（愛鳥センター集合）
　1/27（日）　9:00～11:00

講演会ほか

・愛鳥講演会（県立生涯学習推進センター）
　11/23（金･祝）13:00～15:30
　内容：テーマは「渓流の鳥」です。
　講師：石部　久　氏（日本野鳥の会新潟県会長）
　　羽田 守　氏（新潟県野鳥愛護会）
　参加費：無料　/　定員：150 名（先着）
　申込：11 月 14 日（水）までに愛鳥センターへお申込みください。
・冬季特別展（2 階ロビーで展示）
　11/3（土）～2/17（日）
・野鳥写真展開催
　県内で撮影した野鳥写真を募集します。
　詳細な応募条件等は HP などをご覧いただくか、直接愛鳥センターへお問い合わせください。
　募集：10/上旬～1/7（月）